

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 30 問で解答時間は正味 1 時間 40 分である。
2. 試験問題の持帰りを認めない。
3. 解答方法は次のとおりである。
  - (1) 各問題には a から e までの五つの答えがあるので、そのうち質問に適した答えを(例 1)では一つ、(例 2)では二つ選び答案用紙に記入すること。

<p>(例 1) 101 県庁所在地はどれか。</p> <p>a 栃木市</p> <p>b 川崎市</p> <p>c 神戸市</p> <p>d 倉敷市</p> <p>e 別府市</p>	<p>(例 2) 102 県庁所在地はどれか。2つ選べ。</p> <p>a 宇都宮市</p> <p>b 川崎市</p> <p>c 神戸市</p> <p>d 倉敷市</p> <p>e 別府市</p>
--	--

(例 1) の正解は「c」であるから答案用紙の

101  a  b  c  d  e のうち  c をマークして

101  a  b  c  d  e とすればよい。

(例 2) の正解は「a」と「c」であるから答案用紙の

102  a  b  c  d  e のうち  a と  c をマークして

102  a  b  c  d  e とすればよい。

- (2) 答案の作成には HB の鉛筆を使用し、濃くマークすること。  
 良い解答の例……  (濃くマークすること)  
 悪い解答の例……   (解答したことにならない。)
- (3) 答えを修正した場合は、必ず「消しゴム」であとが残らないように完全に消すこと。鉛筆の色が残ったり「」のような消し方などをした場合は、修正したことにならないので注意すること。
- (4) ア. (例 1) の質問には二つ以上解答した場合は誤りとする。  
 イ. (例 2) の質問には一つ又は三つ以上解答した場合は誤りとする。
- (5) 答案用紙は折り曲げたりメモやチェック等で汚したりしないよう特に注意すること。

次の文を読み、1～3の問いに答えよ。

34歳の初産婦。胎児の異常を指摘され、妊娠31週に近医の紹介で精査のため入院した。

現病歴：妊娠初期に特記すべきことはなく、妊娠29週ころから軽度の腹部緊満感を訴えていた。妊娠30週の妊婦健康診査で胎児の異常を指摘された。

既往歴・家族歴：特記すべきことはない。

現症：意識は清明。身長155cm、体重58kg。体温36.0℃。脈拍80/分、整。血圧98/64mmHg。下肢に浮腫を認める。触診上、胎児は第1頭位であった。子宮底長32cm。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液所見：赤血球320万、Hb10.2g/dl、Ht30%、白血球9,800、血小板20万。血清生化学所見：総蛋白6.0g/dl、アルブミン3.1g/dl、クレアチニン0.5mg/dl、AST22単位、ALT20単位、LDH180単位(基準176～353)、アルカリホスファターゼ350単位(基準260以下)。胎児の腹部超音波写真(別冊No.1A)と胎児MRIのT<sub>2</sub>強調冠状断像(別冊No.1B)とを別に示す。

入院後の経過：腹部緊満感が徐々に強くなり、妊娠33週には子宮底長が38cmとなり、軽度の呼吸困難を訴えるようになった。超音波検査で羊水腔の拡大が認められる。胎児心拍数パターンには異常を認めない。

別冊  
No. 1 写真A、B

1 今後生じやすいのはどれか。

- a 早産
- b 子癇
- c 癒着胎盤
- d 胎盤機能不全
- e 胎内感染

2 胎児の画像所見で正しいのはどれか。

- a 多量の腹水
- b 胃の拡張
- c 腸の拡張
- d 肝嚢胞
- e 腎嚢胞

3 治療として適切なのはどれか。

- a 利尿薬投与
- b 分娩誘発
- c 羊水除去
- d 胎児手術
- e 緊急帝王切開術

次の文を読み、4～6の問いに答えよ。

80歳の女性。昨夜、不穏状態となったため家族に連れられて来院した。

現病歴：7年前ころから物忘れが出現した。最近では食事をしたことを忘れ、自分の部屋が分からなくなることもあった。置き場所を忘れ、「盗まれた」と言うようになった。昨日、自宅の台所で転倒した。痛みのため1日中臥床していたが、夜間、「変なところに連れてこられ自転車に乗せられている。落ちそうで怖い」と大声で叫び、ベッド柵にしがみつくといった言動がみられた。

既往歴：特記すべきことはない。

現症：身長150 cm、体重47 kg。体温36.8℃。脈拍84/分、整。血圧116/84 mmHg。表情はにこやかである。話し方は穏やかだが多弁である。何の目的で来院したのかは理解できていない。昨夜の言動についても覚えていない。それ以外には神経学的な異常を認めない。

検査所見：尿、血液および血清生化学所見に特記すべきことはない。頭部単純CTでびまん性に脳萎縮を認める。

4 この患者にみられる症候はどれか。

- (1) 失見当
- (2) せん妄
- (3) 両価性
- (4) 自我障害
- (5) 不定愁訴

a (1)、(2)    b (1)、(5)    c (2)、(3)    d (3)、(4)    e (4)、(5)

5 この患者の重症度の評価に最も有用なのはどれか。

- a Mini-Mental State Examination
- b Minnesota 多面人格検査
- c 簡易精神症状評価尺度
- d 状態特性不安検査
- e 標準高次動作検査

6 この疾患の特徴はどれか。2つ選べ。

- a 人格の保持
- b 進行性の経過
- c 悪性腫瘍の合併
- d 視野狭窄
- e 女性に多い

次の文を読み、7～9の問いに答えよ。

2歳3か月の男児。発熱、意識障害およびけいれんを主訴に救急車で搬送された。

**現病歴** : 3日前から発熱、不機嫌および食思不振を認めた。昨日夕方から本日にかけて頻回に嘔吐があった。次第に意識が低下し、母親の呼びかけに対してやっと開眼する程度であったが、本日昼からけいれんが頻発し、刺激に反応しなくなった。

**出生・発達歴** : 在胎40週、出生体重3,200g。首の坐りは3か月。寝返りは6か月。坐位は7か月。つかまり立ちは9か月、歩行は13か月。

**既往歴** : 生後7か月のとき、発熱と同時に強直性けいれんを認めた。けいれんの持続は2分で、自然に止まった。脳波検査を受けたが異常は指摘されず、治療も受けていない。

**現症** : 身長86cm、体重12.5kg。体温39.2℃。呼吸数30/分。脈拍128/分。整。血圧106/68mmHg。顔つきは無表情。けいれんは認めない。外表奇形は認めない。皮膚は湿潤しており、皮疹を認めない。大泉門は閉鎖。眼瞼結膜に貧血はなく、眼球結膜に黄疸を認めない。仰臥位で頭部を持ち上げると抵抗がある。咽頭は軽度発赤。表在リンパ節は触知しない。呼吸音は正常である。不整脈と心雑音とは認めない。腹部は平坦、軟で、腫瘤は触知しない。

**検査所見** : 血液所見：赤血球420万、Hb11.8g/dl、Ht39%、白血球24,000(好中球72%、好酸球1%、単球6%、リンパ球21%)、血小板18万。血清生化学所見：総蛋白7.1g/dl、アルブミン4.6g/dl、尿素窒素12mg/dl、クレアチニン0.6mg/dl、アンモニア28μg/dl(基準18~48)、AST28単位、ALT12単位、LDH365単位(基準176~353)、アルカリホスファターゼ120単位(基準260以下)、Na134mEq/l、K4.2mEq/l、Cl98mEq/l。CRP12.6mg/dl。

7 まず行う検査はどれか。

- (1) 頭部エックス線単純撮影
- (2) 脳波検査
- (3) 頭部MRA
- (4) 頭部CT
- (5) 脳脊髄液検査

a (1), (2)    b (1), (5)    c (2), (3)    d (3), (4)    e (4), (5)

8 この患児のけいれんに関与しているのはどれか。

- a 低血糖
- b 低カルシウム血症
- c てんかん
- d 脳浮腫
- e 発熱

9 まず行う治療はどれか。

- (1) 輸液
- (2) 抗菌薬投与
- (3) 血栓溶解療法
- (4) 抗けいれん薬投与
- (5) 非ステロイド性抗炎症薬投与

a (1), (2)    b (1), (5)    c (2), (3)    d (3), (4)    e (4), (5)

次の文を読み、10～12の問いに答えよ。

68歳の女性。前胸部痛と呼吸困難とを主訴に来院した。

現病歴：3週間前から咳嗽と労作時息切れとが出現し、昨日から吸気時に増強する前胸部痛と安静時の呼吸困難とを自覚するようになった。

既往歴：2年前に肺癌の手術と化学療法とを受けた。

現症：苦悶様顔貌。身長158 cm、体重48 kg。体温36.6℃。呼吸数24/分。

脈拍116/分、整。血圧74/52 mmHg。頸静脈の怒張を認める。胸部にラ音を聴取しない。腹部では肝を右肋骨弓下に3 cm 触知する。両下腿に浮腫を認める。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液所見：赤血球320万、Hb 9.7 g/dl、Ht 31%、白血球9,600、血小板18万。血清生化学所見：総蛋白6.2 g/dl、アルブミン3.2 g/dl、クレアチニン0.8 mg/dl、AST 50 単位、ALT 35 単位、LDH 380 単位(基準176~353)、CK 36 単位(基準10~40)。CRP 2.6 mg/dl。心電図(別冊No. 2A)と心エコー図(別冊No. 2B)とを別に示す。

別冊  
No. 2 図A、写真B

10 この患者でみられるのはどれか。

- (1) 心音が減弱する。
- (2) 静脈圧が上昇する。
- (3) 右房が拡大する。
- (4) 拡張期雑音を聴取する。
- (5) 吸気時に脈が微弱になる。

a (1)、(2)、(3)      b (1)、(2)、(5)      c (1)、(4)、(5)  
d (2)、(3)、(4)      e (3)、(4)、(5)

11 診断はどれか。

- a 肺塞栓症
- b 心膜炎
- c 心筋梗塞
- d 感染性心内膜炎
- e 大動脈解離

12 治療としてまず行うのはどれか。

- a 抗菌薬投与
- b 抗凝固薬投与
- c 冠拡張薬投与
- d 心嚢穿刺
- e 機械的循環補助

次の文を読み、13～15の問いに答えよ。

62歳の男性。今朝、突然、吐血をしたため来院した。

現病歴：15年前に近医で肝障害を指摘されたが、放置していた。

既往歴：特記すべきことはない。輸血歴なし。機会飲酒のみ。

現症：意識は清明。身長168 cm、体重67 kg。体温36.2℃。脈拍72/分、整。血圧128/62 mmHg。眼瞼結膜に貧血はなく、眼球結膜に黄染を認めない。腹部は平坦、軟で、肝を正中に4 cm 触知する。脾は触知しない。

検査所見：血液所見：赤血球392万、Hb 12.2 g/dl、Ht 38%、白血球3,100、血小板7万、プロトロンビン時間62% (基準80～120)。血清生化学所見：総蛋白6.8 g/dl、アルブミン3.3 g/dl、総コレステロール173 mg/dl、総ビリルビン1.8 mg/dl、AST 45 単位、ALT 25 単位、LDH 288 単位(基準176～353)、アルカリホスファターゼ245 単位(基準260以下)、 $\gamma$ -GTP 45 単位(基準8～50)。免疫学所見：HBs 抗原陰性、HCV 抗体陽性、抗核抗体陰性、抗ミトコンドリア抗体陰性、 $\alpha$ -フェトプロテイン2,800 ng/ml(基準20以下)。ICG 試験(15分値)32% (基準10以下)。静脈路を確保したうえで行った食道内視鏡写真(別冊No. 3A)を別に示す。

別冊  
No. 3 写真A

13 直ちに行う治療として適切なのはどれか。

- a 赤血球濃厚液輸血
- b プロトンポンプ阻害薬投与
- c トロンピン末の散布
- d 内視鏡的静脈瘤結紮術
- e 血行郭清術

14 この疾患の症候でないのはどれか。

- a 黄色腫
- b 手掌紅斑
- c クモ状血管腫
- d 女性化乳房
- e 腹壁静脈怒張

15 入院後に行った腹部ダイナミックCT(別冊No. 3B、C)を別に示す。門脈本幹には異常を認めない。

治療として適切なのはどれか。

- a ラジオ波焼灼療法
- b 経皮的エタノール注入療法
- c 経カテーテル肝動脈塞栓術
- d 放射線治療
- e 肝切除術

別冊  
No. 3 写真B、C

次の文を読み、16～18の問いに答えよ。

28歳の男性。全身倦怠感と歯肉出血のため来院した。

現病歴：2週間前から全身倦怠感を自覚していたが、3日前から起床時に歯肉に血がにじんでいるのに気付いた。

既往歴：特記すべきことはない。

現症：意識は清明。体温37.2℃。脈拍98/分、整。血圧106/62 mmHg。前胸部と下腿とに点状出血を認める。眼瞼結膜は蒼白。リンパ節腫脹はない。第3肋間胸骨左縁に2/6度の収縮期雑音を認める。肺野にラ音を聴取しない。腹部は平坦で、肝・脾を触知しない。神経学的に異常を認めない。

検査所見：尿所見：蛋白1+、糖(-)、潜血2+。便潜血反応陰性。血液所見：赤血球205万、Hb 6.6 g/dl、Ht 20%、網赤血球10%、白血球2,500(桿状核好中球1%、分葉核好中球26%、好酸球2%、好塩基球1%、単球9%、リンパ球61%)、血小板2.1万、出血時間12分(基準7以下)、プロトロンビン時間98%(基準80~120)、APTT 31秒(基準対照32.2)。血清生化学所見：総蛋白7.0 g/dl、アルブミン4.5 g/dl、ハプトグロビン45 mg/dl(基準19~170)、尿素窒素18 mg/dl、クレアチニン1.1 mg/dl、尿酸4.6 mg/dl、総コレステロール135 mg/dl、総ビリルビン0.8 mg/dl、AST 35単位、ALT 30単位、LDH 350単位(基準176~353)、Na 140 mEq/l、K 4.0 mEq/l、Cl 100 mEq/l。CRP 0.8 mg/dl。

16 この患者の貧血の発生機序はどれか。

- a 失血
- b 赤血球寿命短縮
- c 赤血球産生低下
- d 赤血球の分布異常
- e エリスロポエチン低下

17 この患者の出血傾向の原因はどれか。

- a 血小板減少
- b 血管壁の異常
- c 内因系凝固障害
- d 外因系凝固障害
- e 血小板機能異常

18 この患者に投与する血液製剤で適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 濃厚血小板
- b 洗浄赤血球
- c 赤血球濃厚液
- d 新鮮凍結血漿
- e 血漿分画製剤

次の文を読み、19～21の問いに答えよ。

22歳の男性。大学4年生。周囲からみて理解しがたい行動がみられるため両親に伴われて来院した。

現病歴：両親と弟と同居している。1年程前から次第に寡黙になり、家族ともほとんど口をきかず、自室に閉じこもることが多くなった。大学へもほとんど行かなくなった。最近、まるで誰かと会話している調子でひとりごとを言うが、小声で、なんと言っているのか聞き取れない。時々ニヤニヤと笑ったりもするが、なぜ笑うのかと聞いても、別になんでもないと言う。窓を開けて外を見回し、誰も来ないのに「今、外にいたのは誰？」と家族に聞いたりする。数日前、突然家からいなくなり、2日後に戻ってきたが、どこにいたかは語らない。昨日、テレビのアンテナ線を工具で切断してしまった。

既往歴：喫煙と飲酒との習慣はない。特記すべき薬物の使用歴はない。

家族歴：特記すべきことはない。

現症：表情は硬く、こちらの問いかけに関しては肯否について短い答えが返ってくるのみである。困っていることはないかと聞いても「別に」とぶっきらぼうに言う。

医師の質問と患者の答えとは以下のとおりである。

医師 「だれかから命令が言葉で聞こえてきたりしたのですか？」

患者 「うん」

医師 「どこから聞こえたの？テレビから？」

患者 「うん」

医師 「それで聞こえてきた言葉のとおりにしたのですか？」

患者 「うん」

医師 「そういう命令をされるのは困りますか？」

患者 「困る」

医師 「テレビで自分の悪口を放送されていて、不愉快でしたか？」

患者 「うん」

神経学的検査には素直に応じるが、検査中もその場にふさわしくない笑いがみられる。神経学的所見に特記すべきことはない。血液と血清生化学所見とに異常を認めない。

19 この患者にみられる症状はどれか。2つ選べ。

- a 幻聴
- b 失語
- c 被害妄想
- d 感情失禁
- e 強迫行為

20 この患者に有用な治療薬はどれか。

- (1) ジアゼパム
  - (2) フェニトイン
  - (3) リスペリドン
  - (4) ハロペリドール
  - (5) バルプロ酸ナトリウム
- a (1)、(2)    b (1)、(5)    c (2)、(3)    d (3)、(4)    e (4)、(5)

21 患者は入院して治療を受け、6か月後に退院した。奇異な言動は消失したが自発性の低下が著明で、倦怠感を訴える。大学は中退した。

この患者のリハビリテーションとして適切でないのはどれか。

- a 職親制度
- b 援護寮入所
- c デイケア通所
- d 生活技能訓練
- e 小規模作業所通所



次の文を読み、22～24の問いに答えよ。

56歳の男性。会議中に突然めまいと吐き気とが出現したため救急車で搬送された。

現病歴：半年前から会社の仕事が忙しく睡眠不足が重なり、過労気味であった。

今朝、起床した時はいつもと変わらなかったが、14時ころ会社の会議室で立って発言中に突然、周りがぐるぐる回るめまいと吐き気とが出現し、立っていられなくなった。すぐ、同僚にかかえられて横になったが、めまいと吐き気とが持続した。

既往歴・家族歴：40歳ころから高血圧と糖尿病とを指摘され、食事療法を続けている。父親に高血圧と脳梗塞との既往がある。

現症：意識は清明。身長168cm、体重82kg。体温36.0℃。呼吸数20/分。脈拍90/分、整。血圧170/110mmHg。貧血と黄疸とはない。心雑音はない。胸部にラ音を聴取しない。腹部は平坦で、肝・脾を触知せず、圧痛と抵抗とを認めない。下肢に浮腫を認めない。神経学的診察では、左顔面と頸部から下の右半身とに温痛覚低下、左上下肢の小脳性運動失調、構音障害、嚥下障害および回転性眼振を認める。運動麻痺、難聴、触覚・深部感覚障害、深部(腱)反射の異常、病的反射および膀胱直腸障害は認めない。

検査所見：血液所見：赤血球470万、Hb12.8g/dl、白血球6,500、血小板25万。血清生化学所見：総蛋白6.8g/dl、アルブミン4.6g/dl、尿素窒素16mg/dl、クレアチニン1.0mg/dl、総コレステロール280mg/dl、トリグリセライド190mg/dl、AST28単位、ALT22単位、Na140mEq/l、K4.2mEq/l、Cl104mEq/l。CRP0.1mg/dl。15時に行った頭部単純CTでは異常を認めない。

22 この患者で認めるのはどれか。

- a Bell 麻痺
- b Adie 症候群
- c Horner 症候群
- d Brown-Sequard 症候群
- e Argyll Robertson 瞳孔

23 この患者で障害されていないのはどれか。

- a 疑核
- b 蝸牛神経核
- c 交感神経路
- d 脊髓視床路
- e 前庭神経核

24 聴性脳幹反応(ABR)の波形図(別冊No. 4 ①～⑤)を別に示す。

この患者の波形はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別冊  
No. 4 図①～⑤

次の文を読み、25～27の問いに答えよ。

78歳の男性。急にぼんやりしたり、うとうとすることが多くなり妻と一緒に来院した。

**現病歴**： これまで比較的元気で身のまわりのことは、ほとんど自分で行っていた。2日前から急にぼんやりしたり、うとうとすることが多くなった。日常の行動や着衣の状態がだらしなくなり、呼びかけには応じるが反応が鈍くなった。今朝、下着に黒色の便が付着しているのに妻が気付いた。2、3日前から胃の調子が悪いと言っていた。食欲はなく、2日前までは焼酎を毎日1合飲んでいて、排便の状態は不明である。数年前から外出時にころぶことがあった。

**既往歴**： 40歳代からアルコール性肝障害を指摘されている。約5年前に十二指腸潰瘍に罹患した。

**現症**： 意識は傾眠傾向で、表情に乏しく動作は緩慢である。起立・歩行はできる。身長164 cm、体重62 kg。体温36.4℃。呼吸数14/分。脈拍84/分、整。血圧122/74 mmHg。瞳孔は左右同大、対光反射は正常。前頭部に打撲痕がある。項部硬直はない。胸部に心雑音なく、ラ音を聴取しない。腹部は平坦で、腸雑音が減弱している。圧痛と抵抗とを認めない。肝を心窩部に2 cm 触知する。下肢に浮腫を認めない。両手指に振戦がある。上下肢の腱反射はやや減弱しているが病的反射はない。直腸指診で指先に黒色便の付着を認める。

**検査所見**： 尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液所見：赤血球379万、Hb 9.8 g/dL、Ht 31%、白血球4,200、血小板9万、プロトロンビン時間54% (基準80～120)。血清生化学所見：総蛋白6.0 g/dL、アルブミン3.2 g/dL、 $\gamma$ -グロブリン24.7%、尿素窒素35 mg/dL、クレアチニン1.2 mg/dL、総コレステロール166 mg/dL、トリグリセライド80 mg/dL、総ビリルビン2.3 mg/dL、AST 74 単位、ALT 62 単位、 $\gamma$ -GTP 96 単位 (基準8～50)、Na 141 mEq/L、K 4.5 mEq/L。免疫学所見：HBs 抗原陰性、HCV 抗体陰性。

25 この患者の診断に有用な検査はどれか。2つ選べ。

- a 腰椎穿刺
- b スパイロメトリ
- c 上部消化管内視鏡検査
- d 大腸内視鏡検査
- e 頭部単純CT

26 この患者についての判断で適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 今日の日付や現在の場所についての質問は診断的意義に乏しい。
- b 1週以上前に受傷した身体の外傷についても聴取する。
- c 両手指の振戦は病的意義に乏しい。
- d 最近の便通の状況と現在の症状とは関連がある。
- e 腹部に圧痛と抵抗とを認めないので消化性潰瘍は否定できる。

27 この患者にICG試験を行う予定である。

ICG(15分値)の結果に影響を及ぼすのはどれか。

- a ヘモグロビン
- b 総蛋白
- c  $\gamma$ -グロブリン
- d 総ビリルビン
- e  $\gamma$ -GTP

次の文を読み、28～30の問いに答えよ。

28歳の男性。左陰嚢の無痛性腫大を主訴に来院した。

現病歴：6か月前に左陰嚢の腫れに気づき、その後徐々に増大してきた。疼痛はなかった。

既往歴・家族歴：特記すべきことはない。

現症：意識は清明。身長176cm、体重68kg。体温36.1℃。脈拍68/分、整。血圧110/72mmHg。身体所見で胸腹部に異常を認めない。陰嚢皮膚と右陰嚢内容とに異常はない。左陰嚢内容は鶏卵大で一塊として硬く触知するが、圧痛と透光性とは認めない。

検査所見：尿所見：異常を認めない。血液所見：赤血球456万、Hb15.1g/dl、白血球8,300、血小板26万。血清生化学所見：総蛋白6.8g/dl、アルブミン3.9g/dl、クレアチニン0.9mg/dl、AST40単位、ALT38単位、LDH410単位(基準176～353)。胸腹部CTで両肺に多発性結節影と傍大動脈リンパ節の腫脹とを認める。

入院後経過：精巣腫瘍と診断し、高位精巣摘除術を施行した。

28 精巣腫瘍の診断に有用なマーカーはどれか。2つ選べ。

- a hCG-β
- b AFP
- c CEA
- d CA19-9
- e PSA

29 この患者では血清腫瘍マーカーに異常を認めなかった。精巣摘除術時の病理組織H-E染色標本(別冊No. 5)を別に示す。

診断はどれか。

- a セミノーマ
- b 胎児性癌
- c 卵黄嚢腫瘍
- d 絨毛癌
- e 奇形腫

別冊  
No. 5 写真

30 対応として適切なのはどれか。

- a 経過観察
- b ホルモン療法
- c 放射線治療
- d 化学療法
- e リンパ節郭清

◎ 下記の欄に受験番号および氏名を記入すること。

受 験 番 号	氏 名 (楷 書 で 書 く こ と)